

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	酪農学園大学				
取 組 名 称	酪農場での長期実習を組み込んだ新教育方式				
取組学部等	酪農学部酪農学科				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22095	申請の形態	単独	取組期間	3年
申請の分類	職業教育	FD・SD		地域活性化	
キーワード	実践酪農学, サンドイッチ方式, 長期実習, 遠隔授業, ファカルティ・ディベロップメント				

### <選定理由>

本取組は、大学の特色を活かした堅実な人材育成という視点から、十勝、釧路地方の酪農家との協力関係に基づく長期実習による教育に積極的に取り組んだプログラムとして高く評価できる。現場での実習を1年間と長期化し、大学教育との連携を図ろうとする計画は、大学での教育成果を学生が社会に出てからの実践とどう結びつけるかという現在の大学が抱える大きな問題への回答を出すための具体的な試みとして、大きな意義を有するものである。また、大学が一丸となってこの取組の意義を高く位置づけ、これまでの実績を積極的に活用して学生の特性にきめ細かく配慮したプログラムを考案していることや、今後の展開について具体的な計画を立てていることなど、取組の実現性についても高く評価できる。外部評価の仕組みもしっかりと組み込まれている。

ただし、このような実習と大学教育そのものの両者を質の高いところで保証するためには、ネットワークを学習のために積極的に活用するなど具体的な展開を望みたい。また、今後参加人数を増やし、学生全体への波及効果をより大きくする工夫も望まれる。取組実施に当たっては、これらのことに対応しつつ、着実にその成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

酪農学園大学は循環型農業を示す“健土健民”思想と“三愛精神”（神を愛し、人を愛し、土を愛す）を建学の精神とし、知識基盤社会に対応できる人材育成のために「実学教育」を重視している。この目標を達成するためには、大学内の講義や実習で専門的な知識を学ぶだけでなく、実際の農業・酪農の現場での実習を通して体得することが大切である。

そこで、酪農学部酪農学科では、大学から離れた現地での長期実習をしながら単位を修得できる新しいカリキュラム「実践酪農学コース」を2005年に設けた。このコースの主な趣旨は次のとおりである。

- (1) 長期実習を通して、現場が欲しい即戦力的な人材（専門的な知識だけでなく、総合的・システマ的な技術を体得し、それを支える考え方・視点をもつ人材）を育成する。
- (2) 座学と現地実習を交互に行うサンドイッチ方式を採用し、学内で学ぶ専門知識と現場での実際を結びつけることによる教育的効果の向上を図る
- (3) ファカルティ・ディベロップメントの一環として、現地で行う集中講義を公開授業や検討会（交流会）形式で実施し、現場の農業者や畜産関係者の前で講義を行うことにより、教員に緊張感や刺激を受けさせ授業の資質を向上させる。
- (4) 地域のニーズが高い現場における公開授業や即戦力のある就農者や後継者の育成により、大学としての社会的責任を果たすとともに、農村地域の活性化につながる公共的役割を担う。

実践酪農学コースの具体的な流れは次のようになる。

- 1 年前期 農業者らを講師に招いて開講する実践酪農学（座学）で現場の実際をわかりやすく習得
- 1 年後期 実践酪農学演習（大学内で行う予備実習）で長期実習に備える
- 2 年前期 実践酪農学実習Ⅰ（現地で1回目の長期実習）
- 2 年後期と3 年前期 大学内で一般科目
- 3 年後期 実践酪農学実習Ⅱ（現地で2回目の長期実習）
- 4 年生 一般科目と卒業研究等

1年	前期	学内(実践酪農学・他)
	後期	学内(実践酪農学演習・他)
2年	前期	現地(実践酪農学実習Ⅰ・他)
	後期	学内(報告検討会・一般科目)
3年	前期	学内(一般科目)
	後期	現地(実践酪農学実習Ⅱ・他)
4年	前期	学内(報告検討会・一般科目)
	後期	学内(卒論・他)

図 サンドイッチ方式によるカリキュラム

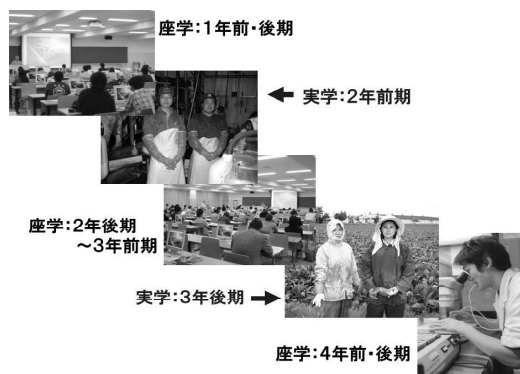


図 実践酪農学コースの全体の流れ

長期実習中でも、インターネットや電子メールを利用した遠隔授業と、現地で実施する月1回程度の集中講義によって、座学の学生と同等の単位を修得することができる。

本取り組みは2005年から3年間実施し、本コースを履修した学生数はのべ21名となっている。しかし、ハード面や農家に対する謝金が充実しているとは言えない。今後も規模を拡大させながら、より多くの学生に本コースを履修してもらうために、「質の高い大学教育推進プログラム」支援事業に応募したものである。